

## 四つ目の「密」

驚きをもって大相撲の無観客興行の中継を観た日を思い出しながら、4月18日の朝参詣を勤めました。新型コロナウイルスの感染予防のため、政府が全国の都道府県に緊急事態宣言の発令を決めたのが16日。その晩、事務局の会議で5月6日までのご奉公体制を確認し、翌17日の御修行参詣に全連合長と全組長の来寺を求めて、御法門前にお寺参詣や御講などの対応を説明させていただきました。

緊急事態宣言が出た場合のガイドラインは、小池都知事がロックダウンを匂わせたのを受けて宗門も準備をし、4月7日の7つの都府県への発令後、直ぐに通達が出ていました。宗門の寺院は、どんなことがあっても御法の救いを求める人を受け入れるため、門を閉ざさないのが基本です。しかし、今回のコロナの封じ込めに、人の動きを一斉に止めるのが有効ならば、そのための緊急事態宣言には国民として協力を惜しんではなりません。長期の活動停止を案じる寺院もありますので、当該の地域には宗門として「すべてのご奉公の停止」を要請し、ご信者はなるべく家にいることを求めたのです。

ただ、愛媛県がその対象となることは、現状では想定外でしたので少し慌てました。晩のニュースでは、感染者の少ない地方の首長は一様に面食らった様子でコメントしていましたが、考えてみれば宣言の出ていない隣の県のパチンコ店まで出掛けたり、新宿歌舞伎町のホストが大挙して札幌の歓楽街に拠点を移したと報じられるのですから、感染の拡大地域だけの行動制限では効果が疑われます。安倍総理が星野源さんの動画に載せた、自宅で紅茶を楽しむ様子は、分別ある大人たちから批判を浴びましたが、コロナ避難で石垣島などのリゾートへ移動する「分別の利かない若者」にまで「自宅にしよう」のメッセージが届かないと、この大作戦は成立しないのです。そんな事情で、18日の朝参詣は無人の本堂でスタートをしました。

しかし、間もなく財務部長の竹原功造さんと、総務部副部長の藤本孝さんが「叱られるかもしれないが気になって」と参ってこられました。翌19日からは御老師のご兄弟や数名のご信者方も「皆が参れない非常時。自分たちがお寺を護る」とばかりにご参詣をされます。もちろん、今は自宅に居るのが正解で、参らない人を責めるものではありません。ただ、それを承知で本堂の御宝前に駆け付ける姿には、幕府が罪人としたお祖師さまを、幕臣の四条金吾さんが堂々と訪ねてお護りしたような、少し高い意識のご信心を感じました。

ところで、今回「しまった」と悔いたのは、松風寺の弱点の未熟な連絡体制を改善できずに活動停止に入ったことでした。海外教区は行動制限が厳しい中をインターネットで交流し、高齢者もオンライン参詣をする時代ですが、松風寺はネットどころか事務局の連絡でさえ「馴れてないなあ」が実態です。感染予防に密閉、密集、密接の「三密を離れよ」と提唱されますが、これを機に四つ目の密として「緊密なコミュニケーション」を意識いただき、電話でも結構。コロナ禍を縁に、組内が互いに声を掛け合う関係を築きましょう。

(「松風寺月報」令和2年5月号)